

平成 26 年 2 月 6 日に建設消防委員会を開催し、所管する事務事業の調査を次のとおり行いました。

・消防救急無線デジタル化整備事業の概要と進捗状況について

～内容～

消防救急無線デジタル化は、電波の有効利用、また、消防活動の高度化や大規模災害への対応の観点から電波法が改定され、通信方式がこれまでのアナログ方式からデジタル方式に移行する。これに伴い、総社市消防本部では、平成 20 年度に基本設計を行い、22 年度は実際に電波を発射して行う電波伝搬調査を実施した。平成 24 年度は無線局舎やネットワーク回線利用のための実施設計、本年度は消防庁舎及び下倉の無線局舎の設置工事を行った。平成 26 年度に無線機器類の整備を完了し、平成 27 年 4 月から運用を計画しているところであり、同事業について進捗状況等の調査を行った。

～質疑～

問：消防救急無線デジタル化と岡山県内の市町村消防本部の統合計画との関係はどのようなものか。

答：県下 14 消防本部が消防救急無線デジタル化については個々に対応しており、平成 28 年度 5 月末までには各々完了する。消防本部の広域合併とデジタル化は別事案となる。

問：大規模な災害発生を想定した場合、総社市消防団の分団間の連絡体制強化のために、トランシーバー以外の無線機器を配備する予定はあるのか。

答：デジタルの周波数が少ないため、消防団の分団にまで周波数が配分できないということもある。今後の周波数の配分によっても変わってくる。また、各分団や方面隊へは、メール等で必ず連絡や指令がいく体制を取っている。

・清音神在本線整備事業の進捗状況及び今後の予定について

～内容～

清音神在本線整備事業は、全体延長 3,300m であり平成 17 年度から 26 年度までの事業。このうち、中原工区 800m、東総社中原線と供用区間 400m、現在施行中の箇所は橋梁部 660m、富原工区 1,440m である。

橋梁部上部工の進捗状況については、総社大橋からも見えるとおり、左岸側、右岸側の桁の架設を残すだけとなっている。3 月末までには、橋桁の架設は完了する予定。今後の予定としては、桁の架設を 3 月に完了させ、床版工、橋梁付属物、排水装置、高欄工の施工完了

が本年の11月末を目指している。

橋梁部の26年度工事については、両岸の護岸、橋脚部の護床工の工事を計画している。また、上部工橋面の残り工事につきましては、舗装工事と道路照明の工事を予定している。

富原工区は26年度施工箇所、延長は本線部で400m、県道部で300mとなっている。用地買収の状況としては、3カ所の用地が未買収であり、同事業について進捗状況等の調査を行った。

～質疑～

問：用地買収について、平成25年11月の所管事務調査から進展していないようだが、新たな障害が発生したのか。また、見込みはどうか

答：一部の地権者は条件整備等の交渉段階にあり、以前よりも進捗している。

問：新架橋の効果を発揮するためにも、三菱自工の社長交替をきっかけに、ウイングバレイ西への部品発注が減らないように、市長から三菱自工へ働きかけを強めてもらいたい。

答：部品数の点からも三菱自工の水島工場では普通車を生産してもらうことが、本市内のウイングバレイ等を中心とした部品メーカーに波及効果が大きいと聞く。委員からの趣旨については改めて市長に伝える。

問：下原から倉敷市真備町へ抜ける県道穴栗真備線のクランクの箇所の道路拡幅についての進捗状況はどうか。

答：事業自体中断はしていないが、地権者との協議などの問題がある。

問：清音神在本線整備事業の工事に伴い、新架橋右岸側の小川工業所の辺りの県道穴栗真備線で交通規制は発生するのか。

答：工事の大部分は、県道は規制せずに西に道路を拡幅するため問題ないが、切り替え時のみ現道との交通規制が発生する予定である。